

令和元年度 学校評価書

山形県立村山特別支援学校

学校教育目標 すすんで学び、よりよく生きる人を育てる めざす子ども 心も体も元気な子ども 生活する力のある子ども 自分の思いや気持ちを伝える子ども

教育方針 (1) 一人一人が今もっている力や特性を的確に把握し、また本人や保護者の思いや願いを踏まえ、育てたい力(育成すべき資質能力)を整理します。
 (2) 必要な知識や技能、思考力、判断力、表現力などを、子どもたちが受け身ではなく主体的にすすんで学び身に付ける日々の授業を展開していきます。
 (3) 卒業後の生活の中で、暮らすことや働くこと、余暇を楽しむことなどを通して、生涯にわたってよりよく生きることができるよう人を育てていきます。

【評価】 「達成度」 A：達成できた(8割以上) B：ほぼ達成できた(6～7割) C：あまり達成できなかった(4～5割) D：達成できなかった(3割以下)
 保護者、教員アンケートによる評価<A～Dの4段階評価の内、AとB合計の割合> 達成できた(8割以上) ほぼ達成できた(6～7割) あまり達成できなかった(4～5割) 達成できなかった(3割以下)
 (教)教務部 (総)総務部 (生)生徒部 (保)保健体育部 (進)進路部 (研)研究部 (相)相談部 (情)情報部 (小)小学部 (中)中学部 (高)高等部

今年度の重点 I 安心・安全な学校

項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題及び改善策
① 相談しやすい学校、相談窓口の明確化 (学部、進路、相談)	○相談部便りや巡回相談パンフ等で相談活動の周知を図る。(相) ○相談部との連携を図り学部への相談を受け答える。(小、中) ○進路希望調査票での相談内容提出、進路相談結果の便りへの記載をする。(進)	○各種便りを見ての相談依頼があり対応した。 ○担当が主に相談に対応し、必要に応じて主任や係が共に面談等を行った。(各学部) ○進路相談内容を進路部内で共通理解を図り、進路に係る相談や進路指導に当たることができた。 ○進路調査結果を学部教員で共有したが、その後の対応や回答についての確認が必要だった。	A 保護者2 保護者4 保護者7 教員10	○相談体制を整え保護者へ相談窓口や具体的な内容・日時・手順等を年度当初に便り等で伝えることで対応をしていく。(相) ○相談部・進路部と学部のそれぞれの相談窓口の周知を図る(小) ○進路説明会や研修会の中で、進路に関する疑問質問に答えるようにしつつ個別の相談にも対応できるよう進路部内の体制を整える。(進)
② 学校安全、危機管理 いじめ防止 (保体、情報、総務)	○山形聾学校と連携した避難訓練や研修会を実施し危機管理体制を整える。 ○月1回の安全点検を徹底する。 ○ヒヤリハット事例を蓄積する。 ○緊急時のメール配信とメールへの登録を推進する。 ○学校生活アンケート等によるいじめの早期発見と対応を行う。	○山形聾学校との合同避難訓練を2回実施した。 不審者対応訓練、心肺蘇生研修実施 ○安全点検項目に危険物(塩素系洗剤等)を加え、校舎内外の安全、教室環境等点検を定期に行った。 ○緊急時一斉メール配信を行うと共に、未登録者情報を最新に保ち速やかな連絡ができた。 ○学校生活の様子とアンケート結果からいじめの認知を積極的にを行い、チームで対応した。	A 保護者1 教員2 教員4 教員5	○備蓄品や保護者引き渡し等、災害時の対応について検討する。(保) ○確実な安全点検と迅速な報告をする。(保) ○ヒヤリハット事例共有のための工夫を行う(GW活用等)(保) ○マメール登録を推奨し、未登録者についての情報共有と緊急時の遺漏無い連絡を実施する。(情) ○いじめに対するアンテナを高くして認知や解消を図る。(生)
③ 食の安全 下校の安全 (保体、生徒、学部)	○アレルギー対応マニュアルの作成、周知により除去食対応等の実施と調理学習や校外学習安全の充実を図る。(保、各学部) ○登下校の一斉通学指導と単独通学生会の実施により安全対策の具現化を図る。 ○緊急時の下校方法に関するマニュアル見直し及び整備をする。(生)	○アレルギー等の事前把握と調理学習事前の食材確認を行い、事故無く安全な食育が実施できた。(小・中・高) ○年度当初、児童生徒の情報を共有する研修会を実施した。 ○通学生会を随時実施し、職員協力のもと通学状況の把握と個別に指導し安全な単独通学を遂行することができた。 ○単独通学生の緊急時下校対応表を作成し活用した。	A 保護者1 教員1 教員3	○アレルギー調査の流れについて周知する。(保) ○調理学習での食材管理、衛生、アレルギー配慮を更に充実させる。(学) ○一斉通学指導の時期や回数を見直し、効果的な登下校指導を行うと共に定期的な単独通学生会を実施する。(生) ○緊急時の下校指導分担・役割を明確にする。(生)
④ 働き方改革の取組	○会議等の見直しを図る。 ○校内巡視と日番業務の改善を図る。 ○定時退校日を設定し実施する。	○グループウェア等を活用し、会議議題の精選を行った。(小) ○校内火気責任者による各部所の整備点検を意識し充実させることができた。 ○月に2回定時退校日を設定し早目の退勤を実施できるようにした。	B 保護者9 教員14 教員15 教員17	○複数担当での業務推進を行う。 ○勤務時間の意識を図ると共に、面談や外部関係機関との会議の計画を改善する。

今年度の重点 II 一人一人に応じた指導・支援の充実

項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題及び改善策
① 個別の教育支援計画と個別の指導計画の見直しと活用 (教務、学部)	○個別の指導計画の様式見直しとその記載について確認と活用をする。	○各学部内で支援計画・指導計画の記入について確認した。学部内で児童生徒の支援について共有しながら指導にあたった。	A 保護者3 教員6	○教育支援計画と指導計画のつながりを明確にし、3つの柱に基づいた目標と評価により指導の充実を図る。(各学部) ○新学習指導要領による教科等の単元整理とつながりのある指導を行う。(各学部)
② 一人一授業研 ミニ研修会・ケース会	○教員一人一人が学校研究に基づく研究授業を行う。(研)	○多くの研究授業が実践され事後研究会での協議・指導・助言を受け、学校研究の推進と個々の授業力向上につながった。(研)	A 保護者3	○指導支援の充実のため学級学年学習グループ等の教員間での授業づくりの工夫を図っていく必要がある。(研)

の計画、実施 (研究、学研、相談)	○本校職員が講師となる研修会や外部講師招聘研修会を企画運営する。 ○ケース会の計画と会の進め方の研修を相談部会で行いケース会に生かす。(相)	○新任者の専門性向上の内容や、学部において必要な内容の研修会を実施できた。(学研) ○ケース会の活用が増加した。会の構成員を工夫することで有意義な会となり児童生徒の支援に効果をもたらした。	教員7 教員8	○職員同士で進める研修会の方法や内容をさらに工夫していく。(学研) ○ケース会の記録を他学部にも伝え支援の共有を図る。(相)
③ 交流及び共同学習の充実 共有施設等の有効活用 (学研、教務、学部)	○居住地校交流を計画実施する。 ○交流及び共同学習を計画運営する。(東北文教大学、山形聾学校、山辺高校) ○校舎共用施設等の調整を図る。	○居住地校交流は、小学部児童5名延べ7回実施した。 ○魅力あふれる特別支援学校づくり事業として、東北文教大学との学習を小学部は1回、中学部は3回実施した。 ○山形聾学校との交流では全学部で行い、高等部の山辺高交流は実態に即した内容を計画し実施できた。 ○体育館使用や物品の借用等について山形聾学校と調整を図り活用できた。	A 保護者6 教員13	○居住地校交流の進め方を丁寧に保護者へ情報提供する。 ○長期に継続できる交流及び共同学習を模索する。 ○交流及び共同学習の時期・内容について相手校との調整を図りつつ継続・充実させていきたい。 ○山形聾学校との調整を密に効果的な施設使用を行う。
④ キャリア教育の視点からの支援 (進路、教務、学部)	○保護者・教職員向けの進路研修会を実施する。 ○昨年度のキャリア教育全体計画を見直し教職員に周知する。 ○先の生活に見通しを持たせたり自分の役割を設定したりして指導にあたる。(中)	○保護者多数参加、教職員も含めた進路研修会を実施できた。さらに研修会の記録を進路便りで紹介した。 ○キャリア教育全体計画の見直し検討を進めたが、全体周知が遅れている。 ○将来の生活に向けて現段階で身に付けることを職員が共有し日常生活や学部行事等での役割を果たし、自己有用感をもたせる指導をした。(中)	A 保護者3 教員9	○重点を明確にした内容での進路研修会を企画する。 ○学校としてのキャリア教育全体計画と進路指導の流れを教員間で周知共有し各学部段階でのキャリア発達推進を進める。 ○よりよい生き方とそれに向けた課題設定のために教員間で共通認識をさらに進める。(中)
今年度の重点 III 保護者の方々や地域への情報の発信				
項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題及び改善策
① 地域関係機関の資源活用 南山形地域連携	○地域人材の講師を招聘し、伝統芸能や地域文化を学ぶ学習を実施する。(高) ○地域文化祭への参加により地域交流を行う。(高) ○各種作品展へ出展する。(学)	○10月27日(土) 高等部2年 城山長谷堂太鼓 1年 陶芸学習 ○10月26日(土) 高等部3年 南山形地区文化祭ステージ発表 中・高等部の作業学習製品展示 ○学習の中で作成した絵画等を出展した。山形市なかよし作品展(20点、24名) 県特別支援学校作品展(8点、44名)	A 保護者6 教員16	○2、3年生は継続して実施したい。1年生についても地域と連携した学習を行う方向で検討していく。(高) ○山形市なかよし作品展と県特別支援学校作品展に、学習の成果を発表できるよう計画的に進める。(学)
② 保護者地域の方への発信 授業参観・各種行事・学校見学等を通じた開かれた学校 (情報、学部、教務)	○学校ホームページの内容充実を行う(情) ○各種便りによる学校・学部・学年情報の発信を行う。 ○授業参観や地域校外バザーの充実を図る。(小、中) ○学校を広く公開する。	○関係部署と連携しホームページへの掲載の内容充実を図り、閲覧数が増加した。 ○学部等の便りで学校行事や児童生徒の様子を発信ができた。 ○授業参観・保護者試食会の実施、中・高等部バザー招待等、学習の成果を知っていただく機会を設定した。 ○福祉関係機関の学校公開参加により教育課程を紹介し理解いただいた。	A 保護者5 教員10	○山形校、天童校との連携を密にし、さらなるホームページ充実を図るために検討を重ねる。(情) ○各種便りにより学習の様子や成果等の理解を深めていただくよう内容の工夫をしていく。
③ 進路や福祉に関する情報提供 センター的機能の充実 (進路、相談)	○校内進路掲示板を充実させる。 ○福祉ガイドブックの作成、進路便りの発行 ○巡回相談等、子供への対応や要望情報を的確に伝えるため打合せ等で相談者の要望の聞き取りを確実にする。(相)	○内容を充実させた進路便りを昨年度より多く発行し、保護者への情報提供を行った。 ○現場実習先や卒業生の進路先について掲示したことで生徒、来校者、保護者が関心をもって見る人が増えた。 ○多くが面談や実習の際、福祉ガイドブックを活用している。 ○相談者の要望を聞き事前検討会において情報や助言をまとめて伝えた。	A 保護者8 教員11 教員12	○校内進路掲示板で効果的に情報を発信できるよう整理提示提供していく。 ○福祉ガイドブックは、山形市内の情報があるが村山地区の情報が少なかった。山形県内情報も追加したい。 ○相談部員全員が巡回相談等にあたるよう事前検討会の充実と相談部内での研修により相談力を養う。(相) ○専門性の更なる向上により小・中・高校への特別支援教育支援を行う

<学校評議員会より>

- ・校内ケース会議(児童生徒支援)について学校での取組実施状況を保護者と共有することでメリットが生まれ、安心感をもてると考える。
- ・卒業後の進路について、理解ある企業の増加や社会全体の追い風を受け今後も適正就労が継続されることを願っている。
- ・就労継続支援B型や生活介護等の事業所への進路をとる場合も、自分の力を発揮して生活できるよう、学校での学びを高めて欲しい。
- ・児童生徒一人一人の自主性を引き出し、「自分でできること」の増える指導を継続してほしい。
- ・学校経営3つの重点がバランスの取れたものになっている。
- ・障がいのある子どもの自立と社会参加を目指した個別の指導を丁寧に行われている。
- ・学級や学年など集団としてのまとまりを育てることも今後大事にしてほしい。